



**東北こども福祉専門学院
学院長**

三浦 摂郎 氏

みうら・せつろう 1963年東京生まれ。明星大学大学院修了。米国L&H、米国FRCマネージメント社を経て社会福祉法人仙台キリスト教教育児院に勤務。その後㈱マザーズえりあサービスを設立、社長就任。2006年東北こども福祉専門学院を開校、学院長。

保育ニーズの多様化で即戦力となる質の高い人材を養成

第一期生全員が国家資格取得という、実績を挙げた東北こども福祉専門学院（宮城野区榴岡）。少子化ながら高まる保育ニーズに対応し、時代に沿ったカリキュラムで質の高い人材を育成。さらに訪問介護などを行うマザーズありますサポートも設立、連動させて福祉のトータルサポートを行う。三浦学院長にお話を聞いた。

——学生の質

三浦 おかげさまで3年課程を終えた第一期生22人が卒業いたしました。全員資格を取得し、4月から保育園や幼稚園、児童養護施設などの第一線で活躍しています。

——学生の質

三浦 新年度の入学者数も増えました。第一期生全員が国家資格取得という、実績を挙げた東北こども福祉専門学院（宮城野区榴岡）。少子化ながら高まる保育ニーズに対応し、時代に沿ったカリキュラムで質の高い人材を育成。さらに訪問介護などを行うマザーズありますサポートも設立、連動させて福祉のトータルサポートを行う。三浦学院長にお話を聞いた。

——今年は開

も高いのでしょうか。

たね。

三浦 今年度は41人と開学以来最多となり、目下勉強中です。これだけ注目されるのは、実情が認められましたからだと思います。今年度も月に1回入学説明会を行っており、問い合わせが増えている状況です。

三浦 むしろ時代を先取りしていると思います。仙台市の待機児童は増加傾向にあり、10年4月現在で594人と聞いており、12年度まで2300人分の供給体制を整備する施策が進行中です。

少子化でこのような現象が起きるのは、働く女性が増えたからです。世帯の平均年収が下がる今、共働きでなんとか頑張ろうとする家庭が増え、保育へのニーズがますます高まっています。直近では9月25日と10月30日に説明会を開催いたします。

——いろいろ教育機関がある中

で、人気が集まる理由は。

三浦 本学院は資格取得に必要な単位に絞って講義をすることで、講義は週に2～3日、1日当たり3時間程度。午後6時以降なので仕事や子育てとの両立が可能な点が支持を受けていること、本学院に隣接するマザーズ・サンプラザ保育園で、お

子様をお預かりする優遇制度も用意するなど教育支援体制も整えていることも、通いやすさの一つになっています。

——グループ企業の元となる、㈱マザーズえりあサービスはいかがですか。

三浦 認可保育園とせんだい保育室A型を運営していますが、おかげさまで順調です。加えて、新たにマザーズベビーシッターサービスと合併させた、㈱マザーズありますサポートを泉区南光台に設立いたしました。ベビーシッターに加え、訪問介護、家事代行、障害者自立支援、ケアプランの作成など中心の業務です。これによりママの子育てから、高齢者、障害者に至るまで、福祉におけるトータルサービスを行う企業として、まい進していきたいと思います。

——来年度を迎えるにあたり、カリキュラムの見直しなどは。

三浦 保育に関わる資格制度も変革の時期に来ており、新しい対応が必要で、その一つがこども園など幼保一元化です。これを受け、本学院におきましては即戦力となる実習にお時間をかけ、質の高さを維持します。

——少子化により保育士が供給過

剰に見えます。